

# 読賣新聞

2010年(平成22年)

4月4日 日曜日

11 文化 12版

2010年(平成22年)4月4日(日曜日)

# 本をよむ

書・神 莫山



本を読む

本の値段は  
税抜きです

## 【教訓】

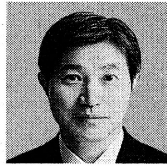
### 伝えるには氣迫を込めよ

新年度――。新社会人になる諸君に、下腹に力が入る二冊を勧める。

一冊は、水谷孝次著『デザインが奇跡を起こす』(PHP研究所、1400円)。第一線のアートディレクターが、無手勝流で道を切り開いてきた自戦記である。伝える、人を動かす、ということがどれほど難しいか。死に物狂いでぶつかっても、滅多に身に付かない力であることがわかる。

竹内 一郎

劇作家、演出家、宝塚大学教授



## ビジネス 5分 道場

無名時代の著者は、一流のデザイナー・田中一光氏に、無理やり弟子にして貰う。結局クビになるのだが、

「君には品性と知性が足りない。とにかく、いいものをたくさん見なさい。いいものを食べなさい」「いいものとは何か、徹底的にわかるまで、デザインはやめなさい」

そういうわれ

て、著者はデザインを一生の仕事にしようと思意する――！

田中氏はこう教える。「君には品性と知性が足りない。とにかく、いいものをたくさん見なさい。いいものを食べなさい。いいものを食べなさい」

はず。「すべてのクリエイティブにとって、いちばん重要なのは『氣迫』だと思ふ。氣迫さえあれば、大き

い人に会いなさい。いい本を読みなさい。い

な岩だって動かせる」著者は今でも波乱万丈を続けている。真剣に生きる人間は、失敗を繰り返す。何度も絶望の淵に立つ。

もう一冊は、『書く―言葉・文字・書』(中公新書、740円)。書家・石川九楊氏による書道論。パソコンの文字で、伝わるものと伝わらないものを考えるヒントに満ちている。

パソコンの文字それ自体には、書き手の思いは込められない。だが手書きの文字は、一点一画をどう書くかで、書き手の気持ちを込められる。著者は一点一画以前の「筆触」を重んじる。言葉の意味は「肉声」に相当する筆触、つまり『書きぶりに』文えられている。ありがとうという言葉も、書きぶり次第で、伝わり方は天と地ほど違ふ、と。